



パッケージコア
取締役会長

木下 光生 氏



「カーとの関係を密にして新しい容器の開発を進めている。プラスチック容器の3R（リデュース/リユース/リサイクル）に沿った環境対策でも、ものすごいスピードで開発が進んでいる」

法人化のタイミングで日本のOEM/ODM会社とも連携を強化した。特殊な海外製容器に適した中身（処方）のスピード開発を実現し、顧客満足向上につなげている。

紙製チューブや木や竹の間伐材を使用したジャー容器など新しい環境対応容器が次々と生まれているという。

「コロナ禍の社会変化や環境への取り組みなどで化粧品業界も大きな転換期を迎えている。新たな共存共栄関係の構築も必要になってきている」

さて、店頭で中身（処方）が日本製、外装（容器）が海外製である化粧品が占める割合は如何ほどか。木下会長は国内化粧品市場に品質の高い海外製容器の普及に尽力した1人だ。海外の容器メーカーの技術力や品質の向上をサポートしながらネットワークを広げ、日

本・海外の容器包装資材メーカーが連携するプロパトナースグループを発足した。グループの代表を務め、パッケージコアでは、海外製の化粧品容器に専門特化して販売を行う。長らく化粧品企画開発・OEM会社の海外容器部門としてパッケージコアを運営して

きたが、18年に法人化し、海外容器メーカーとの連携を強化した。プロパトナースでの情報交換会や会合はコロナ禍で中断状態が続いているが、木下会長は「海外メンバーとは20〜30年の付き合い。会えないというストレスはあるが、ビジネスの面で支障は出て

いない。むしろメンバー間の関係の質の高さを再認識した」と話す。「特に、世界の化粧品市場でトレンドを生み出している韓国は化粧品容器も時代の最先端に行く。韓国容器メ

「つながり」重視の経営で 海外の化粧品容器を広く普及

「つながり」重視の経営で海外の化粧品容器を広く普及